

【樹木の部屋】

ヤブツバキ (ツバキ科ツバキ属 *Camellia japonica*)

和名：ツバキ(椿)、ヤブツバキ(藪椿)

別名：ヤマツバキ

英名：Common Camellia

ツツジ目 常緑高木

原産地：日本

花言葉：控えめな優しさ

花色：赤



← 写真-1 ヤブツバキ

撮影日：2024年4月11日

撮影場所：長浜市豊公園(滋賀県)にて

撮影者：M さん



←↑ 写真-2、3 ヤブツバキの花

撮影日：2024年4月11日

撮影場所：長浜市豊公園

(滋賀県)にて

撮影者：M さん





← 写真-4、5 ヤブツバキの葉

撮影日：2024年4月11日

撮影場所：長浜市豊公園(滋賀県)にて

撮影者：M さん

花期は冬～春で、早咲き種は冬最中に咲きます。花は紅色あるいは紅紫色の5弁花で、枝の先の葉腋から1個ずつ下向きに咲かせます。花弁は半開きに筒状に咲き、平らには開きません。1枚ごとに独立した離弁花ですが、5枚の花弁と多数ある雄蕊の花糸は白色で下半分が合着して筒状になり、その基部はさらに花弁と合着します。散るときは花弁と雄蕊と一緒に落花します。

子房は無毛で光沢があり、花柱の先は3裂します。花筒の底には大量の蜜があり、萼は黒褐色で外面に絹状の伏毛が密生しています。

葉は互生し、楕円形から長楕円形で、先端は尖り、基部は広くさび形です。葉縁には細かい鋸歯があり、葉質は革質で厚くて固く、表面は濃緑色で艶があり、裏面はやや色が薄い緑色で、葉身・葉柄ともに無毛です。

果実は球形で、秋に熟し、実が3つに裂開します。冬も裂開した分厚い果皮が樹の下に見られます。

日本では300年以上前からこのヤブツバキやサザンカをもとにして観賞用にたくさんのお園芸品種が作られてきました。鑑賞用ばかりでなく、各地で防風や防潮のために植栽されています。また材は緻密でかたいので器具類などにも加工されています。

< ちょっと一言 >

*ツバキとサザンカとの見分け方ツバキ(狭義のツバキ、ヤブツバキ)とサザンカはよく似ていますが、ツバキは若い枝や葉柄、果実は無毛なのでサザンカとは区別がつけます。また次のことに着目すると見分けることができますが、原種は見分けやすいですが、園芸品種は多様性に富むので見分けにくい場合があります。

・ツバキは花弁が個々に散るのではなく萼と雌蕊だけを木に残して丸

ごと落ちます(花卉がばらばらに散る園芸品種もあります)が、サザンカは花びらが個に散ります。

・ツバキは雄蕊の花糸が下半分くらいくっついていますが、サザンカは花糸がくっつきません。

・ツバキは、花は完全には平開しません(カップ状のことも多い)、サザンカは、ほとんど完全に平開します。

・ツバキの子房には毛が有りませんが(ワビスケには子房に毛があるものもあります)、サザンカ(カンツバキ、ハルサザンカを含む)の子房には毛があります。

・ツバキは葉柄に毛が生えませんが(ユキツバキの葉柄には毛があります)が、サザンカは葉柄に毛が生えます。

・ツバキは早春に咲くのに対し、サザンカは晩秋から初冬にかけて咲きます。

*植物学上の種(標準和名)であるヤブツバキ(学名: *Camellia japonica*)の別名として、一般的にツバキと呼んでおり、またヤマツバキ(山椿)の別名でも呼ばれています。

*奈良東大寺の「お水とり」では、春を告げるツバキの造花がつくられます。ツバキの分布が少ない東北地方では、ツバキを大切にし、神様として椿山明神をお祀りしたり、門松にツバキを使うところがあるそうです。一方で、ツバキの花が根もとからポトリと落ちるようすが、人の首が落ちるのを想わせるというので、庭に植えないという地方もあるそうです。

*自生の北限地である青森県の夏泊半島には、1万本を超えるヤブツバキの群落があり、国の天然記念物に指定されています。